

# 街を行く

第120回 箱根 Hakone

## 単なる観光地ではなくなりますよ

「多少収まってきたかな」と思った矢先のコロナ禍第三波。コロナ共存社会の到来を観念して受け入れていたとは言え、感染拡大が止まぬ現実を目の当たりにすると途方に暮れますね。

それはさておき、「感染を抑え経済を潤す」というややこしい命題から生まれた「Go Toトラベルキャンペーン」、その効果は絶大でした。今回は都心から近くて人気のある箱根の街を訪ねてみました。

平日にもかかわらず「箱根湯本」駅前の商店街は大賑わい。旅館は満室、ロマンスカーも満席（かなりビックリしました）、よって小生は非常に空いている昼間の新幹線「こだま」を利用しての旅行でした。

訪れた箱根は見た感じ、普段よりもずっと多い人出だと思いました。皆さんの在宅勤務・巣ごもり生活で溜まった我慢が爆発したのか、終息が見えぬコロナ禍にシビレを切らしたのか？ いずれにしても、この時期の箱根は最高です。紅葉狩りや温泉などここならではの楽しさを大いに満喫しました。

都心からのアクセスの良さを考えると、箱根は保養地としてだけでなく、「リゾートワーク」という点でも脚光を浴びるのではないのでしょうか。都会のコンクリートジャングルを捨て、箱根でのんびりと暮らすのも良いかも知れません。それにこれからの時代、ビジネス業務環境でオフィスは“たまに顔を出す程度の場”でしかなくなりますから、通勤距離の問題はなくなりますよね。

だからといって、箱根湯本駅前にタワーマンションが建ち都会化していく風景



箱根行きのロマンスカーは満席。混み合う箱根湯本駅

は見たくないです。個性ある街が“金太郎飴”的な街へ変わってしまうのを見るのは、もうまっぴらです。東京が箱根へ移転してくるのではなく、箱根の生活様式を楽しみたい人が東京などから移転してくるのが望ましいストーリーです。このように、街は「個々の考え方を生かせる場」であることがポイントと考えます。何にも縛られずやるべきことをやる場が、その人にとってのオフィスとなるのです。

花鳥風月を感じながら四季折々の暮らしを満喫する、こんなに素敵なおことはありません。小生も街のネオンよりも月

明かりを好む風流人にならないと……。コロナ禍で街のあり方が本当に変わってきましたね！

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。